

## 第2回 研究部会 研究保育 令和7年6月25日（水）西中島幼稚園

研究主題「身近な自然に興味や関心をもち、関わって遊ぶ中で、  
好奇心や探究心を育む」

- ＜保育の視点＞ ○身近な自然に関わり、興味や関心をもって遊ぶ中で、好奇心や探究心につながっている姿、または、今後、つながっていくであろう姿とはどのような姿か。  
○好奇心や探究心につながる教師の働きかけや環境構成はどのようなものか。

### 研究保育内容

#### ○色水遊び ○泡遊び

- ・紫色や黄色など、それぞれがつくったジュースを友達同士で見せ合い、色の濃さを比べ合っていた。
- ・石鹸を削ったり、泡立てたり、役割を分担して遊ぶ中で、泡立て方により泡の固さが違うことに気付いていた姿が見られた。また、異年齢で関わる中で、5歳児の姿を3歳児が興味や関心をもってじっと見ていた姿があった。
- ・泡だて器の大きさに泡立ちが変わるため、道具を使い分け、泡立ちを試していた。



#### ○水を使って遊ぶ

- ・ホースを使って桶に水を流したいがうまくいかず、繰り返しホースの角度を調整しながら水を流していた。



#### ○泥遊び

- ・桶に砂を置き、流れるかどうか試すように水を流していた。  
砂をたくさん置くと流れないことに気づき、何度も水を流していた。

#### ○探検ごっこ

- ・見つけたアオムシに興味をもち、スコープで見たり、観察するために飼育ケースに入れて図鑑で調べたりしていた。



#### ○振り返り

- ・教師が、一人一人の話を丁寧に受け止めながら、友達の話聞いて幼児同士で質問したり、考えたりできるように投げかけることで、身近な自然への好奇心や探究心につながるように工夫されていた。
- ・振り返りで、実際につくったものや花の写真を見せることで、色水遊びや泡遊びでの発見や楽しさを、他の幼児にも共有できるようにしていた。
- ・子どもが話したいと思えるような教師の言葉かけ、受け止め、共感が見られた。

### 分科会（各グループの意見より抜粋）

- ・色水遊びや泡遊びをしていた幼児は、自分でこんな色をつくりたい、ふわふわの泡にしたいなど、目的をもって遊んでいた。
- ・幼児だけでなく、教師も環境を再構成していくことで、遊びの継続につながっている。
- ・繰り返し遊んだり試したりする幼児の姿を、教師が言語化して伝えることで、安心感につながっている。また、この姿が、今後の好奇心や探究心につながっていくと思われる。
- ・自然環境が充実していた。分かりやすく分類の表示をしていたり、虫眼鏡や図鑑などすぐに調べたり使ったりできるように環境が整えられていた。
- ・友達の遊んでいる姿をじっくり見ることも興味や関心をもって関わっていると捉えられる。見る中で気付いたことを、自分なりの方法でやってみようという気持ちをもつことが、実際に関わって遊ぶ姿につながっていると思う。
- ・クラスみんなが参加できるように学年に応じた話し方や受け止め、投げかけをされていて、違う遊びをしていた幼児も次にやってみたいという気持ちにつながっていた。

### 指導講評

講師 大阪市総合教育センター 教育振興担当 基本研修グループ 指導主事

- ・自然と関わる中で、生きる力、豊かな感覚、感性を養う、命を知る体験をするという事が育まれる。
- ・幼児理解において大人の思いが一方向にならずに一人一人の違いを認める。一つの同じ遊びでも色の変化を楽しむ、ジュースやさんを楽しむ、実を潰す感覚を楽しむなどいろいろな姿が見られる。幼児の興味がどんなところにあるか没頭しているところを捉えて支援することが大切である。
- ・教師も幼児と共に楽しみ、憧れの存在となったり、教師自身が近隣のいろいろな自然に目を向けたりすることが資質向上につながる。
- ・遊びの振り返りをするすることで、興味がなかった遊びにも教師の価値づけにより、知ったり興味をもったりすることができる。また、次への意欲や共感してもらう喜びにつながる。
- ・これからの教育とは、知識と技能だけではなく、得た知識をどう生かしていくか、誰と協働するか、共感するかが必要となってくる。



### 研究保育を通しての学び

- ・教職員で園内の環境を見直す中で、沢山の自然があることを再認識でき、日々の保育に取り入れることで、幼児が自然に興味や関心をもって遊ぶようになると分かった。
- ・幼児の遊ぶ姿をじっくり見て、考えや思いを受け止めたり、認めたり、振り返りの中で遊びを共有できるように、周りに知らせたりしながら、遊びに必要な環境の再構成を繰り返すことが、継続したりじっくり遊んだりする姿につながっていると感じた。